

資 料

辻邦生著作文献目録 (7)

Le répertoire des oeuvres de Kunio Tsuji

佐々木 涇*

SASAKI Thoru

長野大学紀要第22巻第1号(通巻第82号, 2000年6月発行)に引続き、その後判明した辻邦生の著作品について以下に記す。発表順に番号をつけて整理してあるが、年月日の同じものは、著作品の表題が五十音順となっている。表題には『』をつけてゴシック体にし、初出誌とその著者、編者あるいは初出雑誌と出版社はアンダーラインを入れた。その作品が新たに収録されている場合には【収録誌】以降に記し、複数の書物に収録されている場合には、発行日順に列記した。単行本として刊行された作品は初出時の番号がつけてあり、「刊行:」の次にゴシック体にしてある。2000年4月以後に刊行された作品については、前回以降の通し番号をつけ、それ以前の作品については「追-」の後に番号をつけてある。補正の項では、新たに収録誌が発刊、もしくは判明したものについて前回までに付けられた番号にしたがって記した。訂正の項では、筆者のミス、誤植など訂正すべき箇所を、前回までに付けられた番号にしたがって記してある。

【追加】

2000年4月25日(平成12)

2415. 刊行:『言葉の箱』メタローグ

7月29日

2416. 刊行:『辻邦生が見た20世紀末』信濃毎日新聞社

2000年3月31日以前の作品

1987年7月(昭和62)

追-77.『福永武彦・文学の形成と発展-その深淵をさぐる試み』座談会(辻邦生・豊崎博 義・鈴木貞美・池内輝雄 司会), 「高原文庫」2号, 軽井沢高原文庫

1988年10月14日

追-78.『日本とフランス:その心から』講演, 異文化コミュニケーション第22回講演会(於:神田外語学院)異文化コミュニケーション研究所

1993年2月17日(平成5)

追-79.『小説の魅力』(講演) CWS創作学校(主催:メタローグ) 【収録誌】『言葉の箱』メタローグ, 2000年4月25日(平成12)

1994年2月2日(平成6)

追-80『小説の魅力-小説における言葉』(講演) CWS創作学校(主催:メタローグ) 【収録誌】『言

*教授

葉の箱』メタログ、2000年4月25日（平成12）

1994年10月28日（平成6）

追-81『小説の魅力-小説とは何か』（講演）CWS創作学校（主催：メタログ）【収録誌】『言葉の箱』メタログ、2000年4月25日（平成12）

1998年2月1日

追-81『フランス文学の変革期を迎えて』「青春と読書」集英社

1998年3月20日

追-82『少年たちの声』信濃毎日新聞社 夕刊「<今日の視角>」【収録誌】『辻邦生が見た20世紀末』信濃毎日新聞社2000年7月29日（平成12）

【補正】

68.『洪水の終り』【収録誌7】『サラマンカの手帖から』新潮文庫、1975年10月30日（昭和50）

143.『長崎天草を訪ねて』【収録誌6】『現代日本紀行文学全集 補巻3』ほるぷ出版社、1976年8月1日（昭和51）

159.『悲劇の終末』【収録誌3】『近代作家追悼文集成第42巻 三島由紀夫』ゆまに書房、1999年2月1日（平成11）

278.『「夏の砦」まで』【収録誌2】『埴谷雄高全集14』講談社、2000年5月20日（平成12）

430.『印象のなかの福永武彦』【収録誌3】『福永武彦全集 第8巻』月報13、新潮社、1987年12月15日（昭和62）

782.『<美>との出会い』【収録誌】『座談の愉しみ』（下）岩波書店、2000年11月15日（平成12）

1066.『白夜の季節に生きる』【収録誌2】『埴谷雄高全集 第17巻』講談社、2000年11月20日（平成12）

1608.『モーツァルトの泉』【収録誌2】『モーツァルトをひらく鍵』春秋社、1993年3月20日（平成5）1981年12月1日（昭和56）

1383.『信州に学んだころ』【収録誌】『辻邦生が見た20世紀末』信濃毎日新聞社、2000年7月29日（平成12）

以下に掲げた作品番号2413番までは、すべて信濃毎日新聞の夕刊に掲載され、『辻邦生が見た20世紀末』に収録された作品である。

1384.『信州にあこがれる心』

1385.『信州の美しさ』

1386.『美と秩序の行方』

1388.『ある夏クレルモンで』

1392.『夏と父と座禪』

1395.『知る喜びのために』

1397.『読書の秋に寄せて』

1398.『パリ短信(1)』

1398.『パリ短信(2)』

1405.『パリから帰って(1)』

1405.『パリから帰って(2)』

1409.『世界を変えること』

1414.『「平和」理念の現実性』

1415.『卒論の季節になって』

1417.『大学が果たすべきこと』

1420.『世界の動きを作るもの』

1425.『渡航者一千万人時代』

1426.『集団主義と個人主義』

1428.『外人部隊の日本人』

1430.『赤ちゃん実習によせて』

1439.『人間という名の<自然>』

1441.『フランスからの手紙』

1442.『いま日本がやるべきこと』

1448.『砂漠のハイテクの運命』

1457.『井上靖氏の思い出』

1459.『釜ヶ崎の老人たち』

1461.『反戦の声を聞こう』

1462.『テレビを読むこと』

1469.『戦争終結を聞いて』

1470.『世界新秩序のなかで』

1471.『平和を世界に語る時』

1474.『仙洞御所で思ったこと』

1475. 『裁く者 裁かれる者』
1487. 『なぜ大学で学ぶのか』
1489. 『昨今花見風景より』
1492. 『日ソ交流に望むこと』
1495. 『スピノザを学ぶ』
1505. 『信濃の野の花』
1506. 『愛がなければ幸福も』
1509. 『「景観形成」と信州と』
1510. 『やさしさをこめた言葉』
1515. 『静かな日曜日が終る?』
1517. 『生まない意識をめぐって』
1519. 『長野冬季五輪への思い』
1520. 『古い時代の教授たち』
1529. 『ル・マンのショック』
1532. 『自然の不思議を見る目』
1533. 『「世界は一つ」の時代へ』
1535. 『森のなかで世界を思う』
1542. 『物の積み方 考え方』
1543. 『モーツァルトとともに』
1544. 『物と愛の言葉を交わすこと』
1545. 『ソ連の顔 ロシアの顔』
1547. 『ネヴァ河の橋の上で』
1554. 『物の積み方 考え方 (二)』
1555. 『望月市恵先生のこと』
1556. 『限りなく天国に近い国?』
1557. 『新宗教ブームのかけに』
1564. 『パリの街角から (Ⅰ)』
1564. 『パリの街角から (Ⅱ)』
1564. 『パリの街角から (Ⅲ)』
1564. 『パリの街角から (Ⅳ)』
1573. 『ペイルートからの証言』
1574. 『自然の暴威の前で』
1575. 『線と面・空間の指標』
1576. 『二十一人のリーダーたち』
1578. 『なぜ理想を掲げないのか』
1585. 『五十年目の反省』
1587. 『太平洋戦争の映像を見て』
1589. 『相手の幸福を願うこと』
1591. 『蜷川忠臣蔵の一夜』
1600. 『愛するとき美は育つ』
1603. 『ミコーバー氏の言葉』
1607. 『意識の中の構造計画』
1610. 『ケネディの暗殺者たち』
1618. 『ゆとり時代の好奇心』
1622. 『食事の楽しさと底力』
1624. 『海辺の眺めから』
1626. 『親切心とクールさと』
1635. 『ある思索への導き』
1637. 『小学校が消滅する日』
1642. 『映画「ひかりごけ」の問題』
1647. 『フランス社会党の終わり』
1652. 『オーバビー氏の手紙』
1654. 『新学期の風景から』
1661. 『過情報時代を生きるコツ』
1669. 『信州の森の中で思うこと』
1671. 『ある映画が描く背後の闇』
1679. 『ある週刊誌の終刊によせて』
1682. 『生活管理と時間の作り方』
1685. 『まだものが言えるあいだに』
1695. 『生活大国の基本とは』
1697. 『歴史を身近に生きる法』
1699. 『ある看護婦たちの記録』
1704. 『時計時間と生命時間』
1713. 『高齢化社会の入り口で』
1714. 『京都の美と国際的責任』
1715. 『排ガスと紫煙の間』
1716. 『ある一つの不滅の名前』
1720. 『個人と連帯の時代』
1729. 『軽井沢の森の中で』
1730. 『終戦の日に誓うこと』
1731. 『戦後まだ根づかないもの』
1732. 『夏の終わりの憂鬱』
1739. 『太陽と北風の話』
1741. 『この秋パリの街角で』
1741. 『この秋パリの街角で (2)』
1744. 『フランスの新しい顔』
1750. 『この秋ニューヨークで』
1755. 『アメリカの奥深さ』
1757. 『草深い教会の物語』
1758. 『戦争と平和は隣り合う』
1762. 『言葉による理性の政治』
1771. 『熊が里に下りる日』
1774. 『親しさとケジメと』
1776. 『現代アメリカのゆくえ』
1780. 『「国際都市」への期待』
1787. 『南アの大地に立つ少年』

1790. 『ある映画俳優の言葉』
 1791. 『世界の農民をリードする』
 1795. 『スクルージの目ざめ』
 1800. 『国家解体のあとに』
 1802. 『ある誠実な愛の物語』
 1803. 『「国際貢献」という呪文』
 1806. 『スペイン内戦と現代』
 1807. 『バーチャルな現実』
 1808. 『武器が地上にある限り』
 1811. 『超高齢化社会に向けて』
 1814. 『散歩と「ゆとり」と』
 1815. 『不況で戻ってきた常識』
 1816. 『風化したテロリスト』
 1819. 『フランスの保革を貫くもの』
 1821. 『真の男女平等とは』
 1823. 『桜の国の春四月』
 1824. 『スポーツシーズン開幕』
 1825. 『上信越道を走る』
 1828. 『フランス料理の変わり方』
 1831. 『軽井沢の森の日々』
 1834. 『知りすぎた男』(原題「ニキータの語るもの」)
 1836. 『言語からみた統合の道』
 1840. 『Jリーグ人気の秘密』
 1843. 『あるアメリカ女性の幸福』
 1844. 『「夫たち 妻たち」の場合』
 1845. 『企業メセナ問題の今後』
 1849. 『文化破壊と政治危機』
 1854. 『新しい時代の風』
 1855. 『戦争の悲劇を語る意味』(原題「あるアメリカ映画の勇気」)
 1856. 『変わりゆくサミットの顔』
 1857. 『箱庭療法と政治参加』
 1861. 『失われたものの教訓』
 1866. 『ある挫折の記憶』
 1867. 『国民の方を向く政治』
 1868. 『侵略戦争という見方』
 1869. 『はじめに信州ありき』
 1872. 『演説風景きのう今日』
 1873. 『ドゥマゴ文学賞の周辺』
 1874. 『音楽都市・信州松本』
 1876. 『国民と政治と権力と』
 1878. 『歴史の変革期の表情』
 1879. 『ロシアの今後をどう見る』
 1881. 『北信の日々から』
 1884. 『「マリオと魔術師」』 9
 1887. 『景観づくりの長い道』
 1889. 『スポーツの秋に思う』
 1890. 『プロ野球と時代の変化』
 1891. 『真の国際人になるには』
 1893. 『「ピアノ・レッスン」』
 1898. 『政治改革はなぜ延びる』
 1899. 『子供の目が輝くとき』
 1901. 『歴史の転換期の自覚』
 1902. 『美しくなろうとする心』
 1904. 『あえて「和」を尊ぶのは』
 1906. 『毛沢東に思うこと』
 1908. 『子供の読書のために』
 1910. 『三S時代のなかで』
 1914. 『シンドラのリスト』
 1918. 『地球星の子供たち』
 1920. 『美術展は花ざかり』
 1925. 『冬季五輪を迎える心』
 1929. 『青いレクイエム』
 1932. 『知的形成は変わるのか』
 1934. 『不況下のパリから』
 1937. 『花の都のいまは…』
 1939. 『政治ゆるがす若者たち』
 1941. 『新しいルーヴルから』
 1943. 『フランス田園の旅』
 1946. 『信濃の花の下で』
 1949. 『メソポタミアの心配』
 1951. 『「希望」という言葉』
 1953. 『フロイスの言葉』
 1956. 『美が生活感覚になる時』
 1958. 『デマゴーグの手口』
 1960. 『乱歩ブーム』(原題「RAMPOブーム」)
 1962. 『ある老いらくの恋』
 1964. 『変化の時代の処方箋』
 1967. 『猛暑の夜の夢』
 1971. 『ドイツ軍がパリに行く』
 1973. 『森の花々とともに』
 1975. 『水不足の夏に思う』
 1981. 『軽井沢が三十二度になる日』
 1985. 『読む楽しさを子供に』
 1986. 『子ども図書館の現在』

1987. 『恩師古川久先生を悼む』
 1992. 『ある都市緑化の物語』
 1993. 『孤独な散歩のすすめ』
 1994. 『初めは機関銃一丁だが』
 1995. 『企業メセナのゆくえ』
 2000. 『少年をめぐる映画二題』
 2002. 『何故危機は隠される』
 2006. 『子供の病院がなくなる』
 2007. 『オペラの至福に酔って』
 2009. 『伝統音楽と前衛の狭間』
 2011. 『歴史の転換期は今』
 2013. 『アジア人としての眼』
 2015. 『関屋光彦先生を悼む』
 2019. 『樹木と友達になる時』
 2020. 『「あいまいな日本」の意味』
 2022. 『冬のパリの街角から』
 2028. 『幸福と快楽の間』
 2029. 『アトピー患者の悲鳴』
 2030. 『救助犬に動物検疫?』
 2031. 『緊急時の真理とは』
 2036. 『映画「写楽」の陶酔感』
 2038. 『現実を目を開くとき』
 2040. 『京都時雨亭のほとりで』
 2041. 『教育理念の転換期に』
 2049. 『幸福なき安楽社会』
 2052. 『地震国にくらす覚悟』
 2054. 『悲観的気分に対処して』
 2055. 『グロテスクな見本市』
 2056. 『名優トム・ハンクス』
 2061. 『最新フランス事情から』
 2063. 『悪夢に似た現実の中で』
 2065. 『若さを生きる老年に』
 2066. 『西行と過ごした日々』
 2070. 『病んだ社会が見える』
 2071. 『大いなる試練の時』
 2072. 『レニという名の女性』
 2080. 『青島知事の決断の意味』
 2081. 『パリの大道芸人たち』
 2082. 『フランスと核実験』
 2083. 『奇蹟の処女ジャンヌ』
 2085. 『戦後五十年の夏を前に』
 2088. 『青空を待ち望む心』
 2089. 『伝記・自伝のすすめ』
 2090. 『イタリアあれこれ』
 2093. 『仏国に良識がある限り』
 2099. 『教育の新時代のために』
 2102. 『ある長篇詩の悲しみ』
 2103. 『変化する歴史に沿って』
 2104. 『晩夏の軽井沢から』
 2106. 『現実には現実を』
 2110. 『核実験と不戦思想』
 2112. 『法王無謬説と大学』
 2113. 『メセナの新しい段階』
 2118. 『何のため核抑止力』
 2120. 『子供の体力のために』
 2123. 『母乳育児が示すもの』
 2125. 『スポーツの秋に』
 2131. 『救急患者になったとき』
 2133. 『腰痛と正しい姿勢』
 2134. 『生と死が見える場所』
 2137. 『ヘーゲル流行の実体』
 2138. 『映画「ユリシーズの瞳」』
 2140. 『フランス大ストの顔』
 2142. 『西田哲学に触れて』
 2143. 『パリのセザンヌ展』
 2144. 『ある死と左翼の終り』
 2145. 『〈あそび〉のむずかしさ』
 2147. 『ある新装版の周囲』
 2149. 『フランス核実験の終り』
 2150. 『ゲーテの道とわれわれ』
 2151. 『羽生名人の時代がくる』
 2152. 『武満徹さんのこと』
 2155. 『歴史の幻想とイロニー』
 2156. 『デュラスの愛と孤独』
 2157. 『ネルーダと郵便配達人』
 2158. 『都会を歩けた頃』
 2161. 『人間の絆を見いだす場所』
 2163. 『斎藤茂吉と北杜夫』
 2165. 『ヴェトナムの今』（原題「映画〈シクロ〉とベトナム」）
 2166. 『アジア・太平洋の黒いきり』
 2169. 『〈存在の深き眠り〉』
 2172. 『ある歴史誤認とその理由』
 2174. 『寒い五月のフランス』
 2176. 『壇谷雄高全集の意味』
 2177. 『フランス兵が消える日』

2180. 『高齢社会を迎える心』
 2181. 『東京・信州花物語』
 2184. 『世界の天気予報の意味』
 2185. 『マルチメディア時代の憂鬱』
 2187. 『世界は一つの共通現実』
 2188. 『アレルギーはどこからくる』
 2190. 『ヘッセが流行する現象』
 2191. 『平常心とスポーツ』
 2194. 『金銭感覚と精神の品位』
 2195. 『信州の匂い 森の匂い』
 2199. 『カロッサを読んだ頃』
 2201. 『子供たちの笑顔が見たい』
 2202. 『建物が白かった頃』
 2203. 『音楽の森で生を聞く』
 2205. 『金銭支配という暴力』
 2207. 『必要と不必要』
 2209. 『時間と付き合う法』
 2211. 『静かな新年に思う』
 2212. 『人質の底辺にあるもの』
 2215. 『高齢社会は早くくる』
 2216. 『昔イエナという町に』
 2218. 『自由と不自由の間』
 2219. 『ドラマ「冬の蜚」の現代』
 2222. 『現代史への複眼的視点を』
 2224. 『無限の「やさしさ」の人』
 2226. 『本当の危機とは何か』
 2227. 『貧困地帯の人々』
 2229. 『源高根と軽井沢文学』
 2230. 『沸き立つ香港とアジア』
 2236. 『大リーガーへの夢』
 2237. 『スペインの大地と自由』
 2240. 『ジャパネスクのウソ』
 2241. 『何が時代の現実か?』
 2243. 『期待されるEUの理念』
 2244. 『美しい心中は是か非か』
 2246. 『砂漠をひっくり返す発想』
 2249. 『西欧の倫理的バックボーン』
 2251. 『時代の二つの顔』
 2253. 『現代建築の方向』
 2256. 『ある経済学者の静かな死』
 2257. 『アーヘンの宮廷礼拝堂』
 2259. 『歴史の現場にたつ意味』
 2263. 『少年たちのうめき声』
 2266. 『欧州の学生気質の昨今』
 2267. 『現代人はいやされるか』
 2269. 『夏の軽井沢だより』
 2270. 『「聖なるもの」の死』
 2271. 『遠い花火の思い出』
 2273. 『伝記のすすめ』
 2274. 『カルタゴを訪ねた頃』
 2275. 『夏を送る言葉』
 2277. 『ダイアナ元妃』
 2280. 『碓氷峠の写真家たち』
 2281. 『10月がもってくるもの』
 2282. 『眼は変化する』
 2284. 『信州への新しい門』
 2286. 『読書の秋の動き』
 2288. 『政と官の変わらぬ構造』
 2289. 『世界市場が渦巻くとき』
 2290. 『京都国立博物館』
 2293. 『フランスの新しい作家』
 2294. 『血にぬれた古代遺跡』
 2295. 『「三四郎」のなつかしさ』
 2296. 『オペラ劇場の嬉しさ』
 2297. 『大型減税の行方は』
 2298. 『三船敏郎の死を悼む』
 2299. 『文化の土台に徹した人』
 2300. 『ドイツも地方都市は変わる』
 2301. 『＜死霊＞全集版の意味』
 2302. 『社会が崩壊するとき』
 2305. 『雪の五輪と現代美術』
 2306. 『勝利を喜ぶ心』
 2307. 『壇谷雄高一年祭』
 2308. 『すばらしい冬季五輪』
 2313. 『秩序を失った心』
 2315. 『パラリンピックの感動』
 2316. 『映画「タイタニック」』
 2318. 『突然の歴史小説ブーム』
 2319. 『桜に埋もれる日々』
 2320. 『イタリア大使館の庭で』
 2321. 『北の国の笑い』
 2322. 『シラク氏の印象』
 2323. 『多チャンネル時代を前に』
 2324. 『インドと核実験』
 2325. 『千手堂の焼失と心の荒廃』
 2326. 『心情写した陛下のお言葉』

2329. 『金融危機と世界のバランス』
 2330. 『時間をゆっくり考える』
 2331. 『サッカーを機にまず健康を』
 2334. 『多言後時代の到来』
 2335. 『しみじみ聞くもの』
 2336. 『小鳥の森から』
 2339. 『暑さと寒さ』
 2340. 『中央アジアの衝撃』
 2341. 『谷間のチョウの神秘』
 2342. 『食品流通と地方の顧客』
 2344. 『新幹線がもたらした影』
 2346. 『長江の洪水を見て』
 2348. 『地球規模の危機を前にして』
 2351. 『「知恵子抄」の眺め』
 2352. 『堀田善衛氏との出会い』
 2353. 『パリの黒沢監督』
 2355. 『老いてゆく喜び』
 2356. 『クロードロラン展』
 2358. 『日韓共同』
 2359. 『堀田さんとの別れ』
 2360. 『西洋おばけ』
 2361. 『宮脇愛子の「うつろひ」』
 2363. 『中央公論社の役割』
 2364. 『大人たちの無神経』
 2365. 『淀川さんと皇太子殿下』
 2366. 『乃木式こたつ』
 2367. 『皇后さまのテレビのお話』
 2368. 『ある記録映画の終わり』
 2370. 『クリスマスの季節』
 2371. 『美に執着する魂のはげしさ』
 2378. 『通貨統合にみる未来志向』
 2379. 『永遠と一日』
 2380. 『オリンピックの明暗』
 2382. 『白木屋がなくなって』
 2383. 『教育の難しさ』
 2384. 『都知事選の目的』
 2385. 『ドラクロワの意味』
 2387. 『臓器移植の視点』
 2388. 『新しいメガロポリス東京』
 2389. 『季節を待ちわびる』
 2390. 『世界は危機の中に生きる』
 2392. 『桜よきかな』
 2393. 『花見の宴』
 2394. 『季節の恵みを味わう』
 2395. 『バルカンの悲劇の底辺』
 2396. 『東京で見つける自然』
 2398. 『五月五日のこいのぼり』
 2399. 『原稿と向きあいながら』
 2400. 『ジャックと豆の木』
 2401. 『芸術の朝型と夜型』
 2406. 『都市と銅像』
 2407. 『複雑さの中に見る基本形』
 2408. 『カフェテラス』
 2409. 『ガーデンプレイス』
 2410. 『橋のある風景』
 2411. 『街に現れた猿』
 2412. 『都市の姿が変わるとき』
 2413. 『日の丸・君が代現代の危機』

2000年6月25日

1862. 刊行本：『私の二都物語・・・東京・パリ』中公文庫

【訂正】

568. 『パリー夢と実現』 → 『パリー夢と現実』
 903. 『幻想という泉の前で』推薦文『世界文学大系』 → 『世界幻想文学大系』